

令和8年度 第1回福部地域振興未来会議 議事概要

- 日 時 令和8年4月28日（火） 9：00～10：45
- 会 場 福部町総合支所 2階 第2・3会議室
- 出席委員 岩崎幸子、上山弘子、宇山英俊、岸本正枝、谷口孝義、中川玄洋、中島幹夫、西尾祥幸、松田浩稔（順不同敬称略）
- 欠席委員 加藤美幸、西田一幸、濱田香（順不同敬称略）
- 事務局 米澤支所長、福山副支所長兼地域振興課長、瀬戸川産業建設課長、水戸口市民福祉課長、前岡地域振興課長補佐、多賀主任

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 塩見川流域での今後の治水対策について

【県土整備事務所計画調査課】 ～資料に沿って説明～

(2) 公共施設を考える住民ワークショップについて

【鳥取市資産活用推進課】 ～資料に沿って説明～

【委 員】市民としては、自らの意見が少しでも取り上げてもらえることを期待して住民ワークショップに参加するものとする。住民ワークショップの実施自体が目的化すると、委員としても参加を勧めにくい。そのため、どのような対象者を巻き込むのか、また、ワークショップの進め方や運営を誰が担うのかなどについて、十分に検討してほしい。

【担当課】住民ワークショップについては、NPO法人リデザインマネジメント研究所に全体進行を依頼し、市民参画分野で活動する鳥取大学の教員と連携して実施する予定である。参加者は中学生、大学生、一般市民を対象に幅広く募集する。ワークショップのたたき台については、本市の庁内ワーキングにおいて作成し、提示する予定である。ワークショップで出された意見については計画への反映を検討するため、積極的な参加と意見をお願いしたい。

【委 員】福部地域の住民ワーキングの中では、具体的な施設は示されるのか。

【担当課】ワークショップのたたき台を提示する予定であり、福部地域のワーキング参加者から多様な意見が出されることを期待している。

【委員】福部町は人口約2,800人である一方、維持管理費や閉鎖している施設が多いのに施設面積が大きい状況にある。その要因の一つとして、鳥取市が推進する砂の美術館の維持管理費が福部町地域の施設関連経費に占める割合が大きいことについて、住民にも分かりやすく説明してほしいとの意見があった。

【委員】佐治地域には約80施設があり、施設数が多い状況にあるが、今後、施設数や維持管理費の削減は可能なのか。

【担当課】佐治地域の施設数が多い要因の一つとして、市町村合併前から各集落の公民館が公共施設として位置付けられていることが挙げられる。現在、集落公民館については順次譲渡を進めており、今後、施設数は減少していく見込みである。また、これらの施設は地域住民が日常的に管理しているため、維持管理費は比較的少ない状況にある。そのほかにも合併前に整備された施設が多く存在していることから、住民ワークショップでの意見を踏まえ、今後、施設の再編方針を作成していく考えである。

4 協議事項

(1) 福部地域振興未来プラン実施計画について

【事務局】～資料に沿って説明～

【委員】具体的な取組として「農業の省力化など新たな技術について研究する会の開催」が示されているが、これまで数十年にわたり十分な進展が見られていない状況にある。らっきょう産業は50～60戸の生産農家により支えられ、約1,000人規模の産業であり、生産額は約10億円を目標とする重要な産業である。一方で、10年後を見据えると将来的な見通しは厳しい状況にあることから、中長期的な視点に立った取組が必要であると考える。そのため、行政・生産者・JAを含めた推進体制（会議体）を構築し、行政主導で関係者を招集し中長期的な取組を進めてほしい。

【事務局】先ほどのご意見については、今後協議を行っていく。

【委員】取組として「鳥取市内の小学校にらっきょうのプランターを配布し、らっきょうのPRを行いながら食育教育を推進する。」という内容について、プランターの配布時期はらっきょうの花が咲く時期を想定しているのか。

【委員】らっきょうは7月頃に植え付けを行い、10月下旬に小学校の授業時期に合わせてプランターを配布している。配布時には、らっきょうの歴史や食べ方について説明するとともに、レシピ集やらっきょうの育て方ガイドを配布するなど、らっきょうのPRと食育の推進に取り組んでいる。

【委員】取組として「水田の保水機能維持のため、福部町南部の水田における農業生産活動を支援する」と記載されているが、具体的にどのような支援を行うのか。

【事務局】農業生産活動への支援については、中山間地域を対象とした補助事業を活用しており、本年度は6件の取組に対して補助金による支援を行う予定である。

【委員】らっきょう産業に限らず、後継者不足は全国的な課題であると考えます。また、空き家対策に関連して、福部地域で外国人労働者の住居を探したものの適当な物件が見つからなかった。例えば、公営住宅の一部やお試し住宅を外国人労働者の居住先として活用することはできないか。

【委員】公営住宅の活用については、過去に浪花団地をお試し住宅として利用できないか相談した経緯があるが、利用は困難であるとの回答を受けている。

【事務局】浪花団地については、現在建替事業を行っており、継続的に居住する方の部分を残して整備する予定であるため、現段階では団地を活用することは困難だと考える。

【委員】本来は雇用する農業者自身が住居を用意しないといけないと考えるが、現状では十分に用意できないのが現状であると考えます。今後、外国人労働者の増加が見込まれると考える。

【委員】外国人労働者が入居する際には、地域住民への説明や理解を得ることが必要であり、あわせて日本文化を伝えていくことも重要であると考えます。

【事務局】特産品の充実に向けて、農業の省力化などの新たな技術に関する研究会を開催する予定である。また、研究会の開催にあたっては、関係者の参画を促すための調整や関係者の招集にも十分な時間を確保して取り組んでいきたいと考える。

【委員】地域おこし協力隊の受け入れに向けて、次の協議事項にもあるが、関係団体との協議が6月下旬に予定されている。協議にあたり、既に協議済みの団体があるか、また協力隊の募集開始に伴う現状の進捗について確認したい。

【事務局】採用後、速やかに業務に取りかかれるよう、事前にアイデア館の担当者と協議を行っている。協議では、協力隊募集の内容や進行日程について事前に共有し、調整を行っている。

【委員】オアシス広場におけるグラウンドゴルフの利用について、県外利用者の受け入れが可能かどうか。また、利用料金の設定について確認したい。

【事務局】利用者の増加を図るため、オアシス広場でのグラウンドゴルフの使用料はかからない。

【委員】グラウンドゴルフ協会がほぼ毎日のように利用している状況があり、今後利用者を増やす場合には、利用調整等が必要になると考える。

【事務局】県外からのグラウンドゴルフ愛好者が一定数来訪している一方で、白兔や泊など周辺地域への誘導にとどまり、地域内での消費につながっていない現状がある。一方で、地元の高齢者を中心にオアシス広場は日常的に利用されており、両者の利用をうまく結び付けられないかという観点から、まずは実証的に利用状況を把握する取組を進めている。また、同施設は平成7年度整備であり、築30年以上が経過して老朽化が進んでいることから、今後利用促進の状況を踏まえ、必要に応じて修繕等も視野に入れながら検討を進めていきたいと考えている。

(2) 地域おこし協力隊について

【事務局】～資料に沿って説明～

【委員】地域おこし協力隊の職員が、特産品の商品化を行うことは、業者との提携がないと難しいと考える。「福部アイデア館」と提携して製作してもらうということなのか。特産品開発について、どのような展開を想定しているのか。

【事務局】既存商品のパッケージ内容についても、どのようにリニューアルすれば、より売れる商品になるかを検討する必要がある。魅力ある商品作りとは何かを考え、改善すべき点があれば順次対応していくことが望ましい。そのような観点で取り組んでもらえるとよい。

【事務局】 地域おこし協力隊の取組に関する考えとして、前回の会議においても様々な課題が挙げられた。特に商品のロットの問題など、対応すべき課題は多い。一方で、農業の持続可能な経営を考えた場合、就労者の確保や農産物の単価向上に真剣に取り組む必要があり、そうした取組を進める時期に来ていると考える。

【委員】 福部アイデア館は有効な施設であると考え。同館のメンバーは70代から80代の方が中心であり、これまで開発した商品を道の駅等において販売している。一方で、地域おこし協力隊と連携し、新商品の開発などに継続的かつ頻繁に関わることが可能かについては課題があると感じている。また、福部町総合支所職員が来訪した際には「できる範囲で協力する」との回答にとどまっている。地域おこし協力隊の活動が今後どのように具体化され、事業化されるかは今後の検討課題であるが、現時点では、アイデア館のメンバーが積極的に関与できるかどうかについては不透明な状況である。

【事務局】 不安を与えることのないよう、引き続き相談しながら進めていきたいと考えている。現在は大変な時期であるとの認識であり、今後を見据えると、後継団体の育成にも取り組む必要がある時期に来ていると考える。地域おこし協力隊についても、その中で貢献できるよう、可能な範囲での協力をお願いしたい。また、事業承継のような観点も含め、既存団体との連携を継続できるような仕組みづくりを念頭に置きながら、育成・支援をお願いしたい。

【委員】 鳥取市が掲載を予定しているサイトは「スマウト」であり、全国規模で事業承継や移住ツアーなどを紹介している有名なサイトである。地域おこし協力隊の募集は全国で毎年1,000人規模で行われており、その中で福部町をいかに見つけてもらうかが課題である。地域おこし協力隊の活動内容については、最終的に福部町に定着してもらうことを念頭に、写真や文章で魅力をまとめていく必要がある。多くの地域では活動内容を絞って掲載しているのが現状であり、福部町についても文章と写真で明確に示すことが望ましい。協力隊が来町した後は、本人と面談しながら活動を進めることが望ましいが、受け皿となる体制があいまいであると、協力隊も不安になり、受け入れ側の負担も増えるため、事前に整理しておくことが必要である。

【委員】 サイト掲載にあたっては写真が重要であり、多くの人に見てもらい関心を持ってもらうことが出発点になると考える。そのため、いかに人目を引く求人内容とするかが今後の課題である。今後については、委員からの助言もいただきながら、優秀な人材の確保につなげていきたい。

【事務局】 地域おこし協力隊について、6月から募集開始できるように準備を進めていく。